

ますます、いよし。



伊予市
えひめ

令和5年度

第1回伊予市部活動の地域移行に関する検討会議

| | | |
|---|------------|---------|
| 1 | 開会挨拶（座長） | |
| 2 | 自己紹介 | |
| 3 | 協議 | 進行：副座長 |
| | ・前回までの内容確認 | } 事務局説明 |
| | ・各校の部活動の状況 | |
| | ・令和5年度の方角性 | |
| 4 | その他 | |
| 5 | 閉会挨拶（座長） | |

令和5年6月19日（月）

19:00 ~ 20:30 市庁舎 4階 大会議室

令和5年度 第1回部活動地域移行検討会 資料

令和4年度 第2回検討会議 概要

- ボランティア指導員について
 - ・ 既にボランティアで指導してくれている地域の方が結構いる
 - ・ 今のボランティア指導員は保険に入っていない
 - ・ 今年度の予算確保が3人分で足りるのか
 - ・ ボランティアなので継続性の担保はない
 - ・ 指導者は研修を受けていただくことが今後必要では
 - ・ 外部コーチの有無でチームの実力差が大きくでる
 - ・ 外部指導員と教職員との指導で温度差(平日厳しく土日楽とか)が出ないように

- モデルケースについて
 - ・ 伊予中は女子ソフトテニスで熱心な外部指導者(保護者)がいる
 - ・ バレーは現在既に港南中に中山中から練習にきている
 - ・ 港南中学校野球部(5人)は砥部と合同練習している
 - ・ ハンドボール等、新しい種目も部活動にできているところがある
 - ・ 生徒目線ではバドミントンや卓球がやりたい種目で多かった

- その他
 - ・ 拠点校方式の場合、体育館やグラウンドの利用調整が可能か
 - ・ 拠点校方式の場合、生徒の移動が可能か(スクールバスを活用している自治体がある)
 - ・ しおさい体育館等、学校以外の施設利用は可能か
 - ・ 拠点校として今後中体連参加は可能か
 - ・ 外部指導者の引率は可能か

<前回の結論>

令和5年度にモデルケースを作ってみて、課題を探そう

連携協定を結んでいる愛媛大学の学生の活用を検討中

令和5年度 実施事業(案)

1 部活動地域移行先進地への視察

県費補助「地域スポーツ活動体制整備事業費補助金」を活用し、検討会議委員による先進地視察を行う。…(資料1)

視察予定地:香川県東かがわ市を想定(日帰り)

2 ボランティア指導員の保険加入、研修制度の充実

部活動の地域移行のための地盤整備として、現在各校で活動してくれている部活動のボランティア指導員を調査整理し、市予算で保険加入費用を補助する。

※ 各中学校対象に例年実施している調査で指導者概要を把握する。

※ 次年度は希望者には指導員に関する研修費用も予算措置する。

※ ボランティア指導員への謝礼は要精査

3 部活動地域移行モデルケースの検討・導入

前回検討会議の結果を受け、モデルケースを導入するにあたり、その運用方針等を検討・決定いただきたい。

● 検討事項

(1) 地域移行の最終目標点

<課題>

本市の地域の実情を踏まえ、地域移行の当面の目標を下記の①又は②を参考に、意識の統一をしておきましょう。…(資料2)

※ 国のガイドラインでは、②を実施しつつ①へ移行していくという考え。

① 市内又は圏域で部活動種目の地域クラブを設置し、生徒に選択参加させ、当該クラブを総合型地域スポーツクラブや民間へ委託や市町村が各種団体と連携して運営していくことで、これまでの学校による部活動から地域によるクラブ活動へとスライドさせる。→地域クラブ移行型

メリット:学校の負担減、種目選択肢が広がる

デメリット:保護者費用負担増、クラブまでの移動手段、受け皿団体の不足、勝利・商業主義への偏向

② 合同練習や拠点校設置により部員不足の課題に取り組みながら、地域住民による指導や、人材不足な地域には市が外部指導員を配置したりすることで、学校と地域が協力して部活動を継続していく。→部活動維持型

メリット:下地があり移行しやすい、種目の選択肢が広がる

デメリット:生徒の移動手段、人材確保の継続性、学校負担減りにくい

※ 保護者や市民への周知説明において、ある程度の目標、到達点は必要。

(2) 今年度取り組むモデルケースについて

今年度に取り組むモデルケースについて、(1)①の「地域クラブ移行型」のような考え方もありますが、前回の検討会では、②の「部活動維持型」をイメージした感じであったことから、②での検討でよいか確認をお願いします。

○ 「地域クラブ移行型」のイメージ

- ・ 部活動の種目について週末(月 1～2 回)に指導者と会場を市が準備。
 - ・ 希望する中学生(小学生や高校生も可?)誰でもが参加可能。
 - ・ 所属する部活種目以外にも気楽に参加可能(高校では違う部活してみたい。の入口に)
 - ・ スポーツ環境整備の要素が強い反面、部活動と切り分けて行うので、学校や保護者との調整が最小限。
 - ・ 教員やスポーツ指導員といった適切な指導者+大学生等で指導
- <課題> 場所と指導者の確保

○ 「部活動維持型」のイメージ

- ・ 部員不足に悩んでいる種目について合同練習の推進(一步進んで拠点校の設置)
 - ・ 週末(平日も可)に合同練習(拠点校の場合は大会も出場)
 - ・ 指導者は、教師、地域指導者、大学生の三者で協力
- <課題> 練習場所への生徒の移動

(3) モデルケースとする学校と種目

「部活動維持型」の場合、モデルとする種目及び学校の選定等をお願いします。…(資料3)

種目: _____ (男 ・ 女)

実施校: _____

練習日: (平日 週末 両方)

その他: _____

※ 単体校で活動しているが、技術的指導者が欲しいという学校へ外部指導員を派遣するといった方式もあります。(外部指導員の有無による体験格差の低減が主目的)

※ 実施に当たっては、次年度以降も持続可能な内容である必要があります。

4 今後のスケジュール

本日協議頂いた内容で具体的な実施方針及びスケジュール案(先進地視察含め)を作成し、次回お示ししたいと思います。

5 その他

- ・ 地域おこし協力隊の活用例…(資料4)